

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	事業所と地域の情報交換だけでなく、家族や入居者が事業所の運営に関する意見を出せるような会議の持ち方が求められる。	参加メンバーが限られた方のみであるため、文書化し利用者家族に周知を図る。	施設だより、事業所だより等々を作成、運営推進会議での議事録の公表を行うなど、情報提供し家族に理解して頂き、会議参加を求め、その際、意見やサービスの要望等々の意見交換を行い、施設・事業所の理解とサービス向上に努める。	6ヶ月
2	6(5)	入居者が自由に玄関の外に出ることができるように、門扉のフェンスを閉めて玄関は施錠しないで見守るような取り組みが期待される。	時間を決め、解錠していくようにする。	一名の方の徘徊防止のため、グループホームの玄関は施錠はしていないがすだれやカーテンでふさがれていたけれど、すだれを外し、カーテンを開け見通しよく改善できた。が、小規模多機能型施設の玄関は今だ施錠されている状態である。しかし、今後徘徊パターンを把握し見守り重視に努め、時間を決め解錠できるようにする。	6ヶ月
3	23(9)	申し送り帳は入居者の状態の記述が多く、一人ひとりの思いやりや暮らし方の希望や意向が見えてこない。フェイスシートの利用などで更に丁寧な取り組みが望まれる。	センター方式シートを活用し一人一人の希望・意向を把握する。	センター方式シートの利用 A-4基本情報(私の支援マップシート) B-3暮らしの情報(私の暮らし方シート) B-4暮らしの情報(私の生活環境シート)各シートを作成し、職員が共有できるように個人ファイルを作成する。	6ヶ月
4	40(15)	入居者と一緒にメニューを考えて季節を感じたり個人別の箸や陶器の茶碗を使うなど、家庭の延長のような生活の中で食事を楽しむことができる支援が求められる。	副食の一品作り、朝食作りの際、食材切りや後片付けを利用者と共にするようにしていく。個別のお箸、茶碗を調える。	外部業者がメニューを決定しているため、好みに応じたメニューを常に確立することは難しいが利用者の好き嫌いの把握は出来ているため好みに応じたものは提供できている。お誕生会のメニューは利用者の意見を取り入れるようにしている。配膳や後片付けを職員と共に行うようにしていく。個別の箸・茶碗は使い慣れたものを持ち込んでもらうように家族に依頼する。	3ヶ月
5	49(18)	計画的な外出だけでなく、毎日の生活の中で入居者の行きたい場所に行ける個別の支援が望まれる。	毎日の生活の中で行きたい場所への個別支援の実施に努める。	施設の近くに自宅があり、散歩がてら自宅近所まで同行することもある。県立図書館へ週一回同行し本を借りてこられる。等々、外出ができてきている。しかし、一部の利用者であるため他の利用者の意向も取り入れていくよう努力していく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。